

第6期四国中央市自立支援協議会 第6回会議 議事録

開催日時	2019年7月19日(金) 19:00 ~ 20:30			
開催場所	市民交流棟2階 会議室1・2	司会		記録
参加者 (敬称略)	委員13名(欠席2名) 福祉部長			
事務局	4名			
協議内容				
<p>1.開会</p> <p>2.会長挨拶</p> <p>梅雨が長引いている。足もとが悪い中出席頂き感謝申し上げます。</p> <p>先日、子ども若者ネットワーク会議があった。</p> <p>そこで感じたのは、自立支援協議会が有する課題・協議と近いものがあるということ。</p> <p>二つの組織が連携することも今後検討する必要も同時に思った。</p> <p>四国中央市の福祉向上を目指し、本日も審議をよろしくお願ひしたい。</p> <p>3.配布資料</p> <p>(1) 会議資料</p> <p>(2) 居住支援法人制度資料</p> <p>(3) 地域共生部会 障がい者支援者研修会チラシ</p> <p>4.議事(議長)</p> <p>【報告事項】</p> <p>議長：報告事項①各専門部会及び連絡会から昨年度活動報告を各部会長からお願いしたい。</p> <p>(1) 資源開発部会</p> <p>資料6ページ。本年度はこれまで4回開催。活動内容は支援者向けアンケート調査報告書作成と家族向けアンケート集計。当事者向けアンケートは、調査を四国学院大学学生に協力を依頼することとした。先週、同大学2回生30名を対象に、四国中央市の現況・自立支援協議会の説明等を交えながら講義形式で依頼を行い協力できる学生を募集。調査日は9月17日~20日の4日間当事者がいる事業所を回ってヒアリングを行ってもらった。</p> <p>その他、愛媛県が第2次障がい者福祉計画策定に向けアンケート調査を行うとの情報が入り、その結果もニーズの参考にしていく方針。今後は家族向け、当事者向けアンケート等の結果整理をしていく。</p> <p>次に支援者向けアンケート結果を報告する。</p> <p>このアンケートは72事業者を対象に平成30年10月から11月に行った。66事業所から回答、91.6%の回答率だった。分析方針は2つ。1つ目は回答の主要な要望をとらえるアフターコーディングという方法。もう一つは単語の出現頻度や関連性からとらえるテキストマイニングという方法。アフターコーディングから出た分析結果から①公共交通機関の利用に課題がある②不足しているサービスとして生活介護・グループホームが求められている③男性ヘルパーの不足④障がい者雇用促進のための関係機関の連携不足⑤交流体験の場・地域交流の機会が不足している という5つの課題が上がった。次にテキストマイニング方式での分析結果では、①グループホーム・ヘルパーの単語が多く、要望と捉えられる②地域交流や支援の単語が多く期待が高い などが考</p>				

第6期四国中央市自立支援協議会 第6回会議 議事録

察された。またこの方法では少数意見を見落としてしまうこととなるため、重要と思われる少数意見も10ページに記載した。

以上のことから、資源開発部会が出した結論は、移動に関する利便向上のための独自政策が必要、事業者増、ヘルパーの人材確保、当事者の居場所づくり・交流の場、情報不足解消のためのポータルサイトなどがあればよいとの結論に達した。

これが、支援者から見た四国中央市障がい福祉の課題と解消となる。

今後、家族の意見・当事者の意見を生かして、みなさんの意見頂き、実現可能なもの探っていきたい。

(2) 拠点整備部会

資料11ページ。今年度4回開催。

活動内容及び成果は、昨年度作成した整備イメージを基本に具体案を探っている。

途中段階ではあるが、太陽の家整備を含めた行政機関に求める役割をまとめているので後程報告する。成年後見等権利擁護啓発ハンドブック改訂は現在精査中。2019年度内完成を目指す。

今後の協議内容も述べた2点について詰めていくこととしている。

資料12ページ。太陽の家を含めた行政機関の役割について説明する。

行政機関について4点の役割を求めたいという考えとなっている。

1点目は医療的ケア機能を含む短期入所機能、2点目は緊急時一時支援・レスパイト機能、3点目は相談支援機能。

当市は、短期入所機能は市内に2箇所、24時間体制緊急一時機能は市内1箇所あるが、広い面積を有するため複数必要ではとの見解。相談支援機能は、入所者等の相談支援体制を24時間できるようにすることで、緊急時対応の軽減を図ることができるとの方向性を示している。

4点目は、休日・夜間の余暇支援等ができる交流スペースの確保が必要と結論づけている。当市では、夜間における余暇支援がないこと、休日に利用できる事業所が少ないと分析している。先ほど報告があった資源開発部会が報告したアンケート結果からも、我々の見解を裏付けるものとなっていると思っている。

今後、要望書を作成し、福祉部長及び福祉事務所長へ提出。行政でも検討頂き実現に向けて進めていけたらと思っている。

(3) 地域共生部会

資料13・14ページ。部会の開催は4回。

活動内容は、支援者研修会開催を9月5日(木)に行うことで決定。現在、別紙チラシを作製し配布。参加者を募っているところ。内容等は記載のとおり。テーマ別グループワークを行うが、その詳細が14ページとなっている。

この活動が、障がいがある方の地域移行・地域定着に繋がればと思っている。

次に地域共生を目指すことを目的に住民理解促進事業として、防災をテーマとした住民参加型事業を行う。2020年2月を予定として今後内容を精査していく。

(4) 相談支援専門員連絡会

資料15ページ。部会は月1回。7月は来週開催予定。

活動内容等は下記の通り。

それぞれの専門部会に、相談員が配置されているのでその情報交換・情報共有に努めている。

その中で、相談支援専門員の立場からの意見を集約し、常任委員会等で報告・調整を行ってい

第6期四国中央市自立支援協議会 第6回会議 議事録

る。

今後も同様に情報共有に努める。

議長：以上で説明が終わった。質疑があれば発言を求める。

質問：資源開発部会のアンケート配布・ヒアリングを学生に協力を依頼するということだが、ヒアリングする事業所等受け入れ先の予定は。

回答：部会員の事業所を検討しているが、具体的には今後の協議。

質問：資料7ページ。「知られていないため使われていないサービス」とあるが、どのようなもの指しているのか。

回答：例えば「移動販売」があればという意見があったが実際にはある。「ジョブコーチの配置を求める」という意見もあったが対応できるなどの具体的事例があった。

意見：資料8ページの「交流・体験の場」や「地域交流の機会」などの提供は私も必要だと考える。ぜひ推進してほしい。

質問：資料13ページの支援者研修会。一般参加は可能か。
不登校など市民の方で関心の高い方もいると思うが。

回答：今回は事業者向けで実質的支援を行っている方と考えている。踏み込んだ内容等を協議する場合、個人情報保護にも配慮しなければならない。そのためにも事業者限定とした。

意見：今回の件はわかったが、できれば一般参加できる研修会も希望する。

回答：検討してみる。

質問：拠点整備部会の行政に求めるサービスだが民間については。

回答：民間事業者においては、既存資源サービスの活用を拠点整備に加え、必要であるなら新規サービス創設もあるべき。その中で、資料12ページにあるようなサービス等を行政が担うことで、充実していくのではという考えである。

意見：要望が具体的すぎると、そこに限定されないかと危惧するが。

回答：そのとおりだと思う。加えて、要望書は作ったらいいというものではなく、実現可能なものを模索すべきと考えている。内容を詰めていきたい。

議長：以上で質疑を終了する。

【協議事項】

議長：次に協議事項「2019年度四国中央市就職準備フェア開催について」を議題とする。

説明：資料16ページ。前回、就職準備フェア開催について承認を頂いた。本日は要綱案を用意している。実行委委員については、事務局を含め10人体制で組織すること提案する。本日、ご承認頂いたら、8月に第1回実行委員会を開催し、内容を検討していきたい。

議長：以上で説明が終わった。質問があれば受け付ける。

意見：企業の立場からみれば、12月開催は難しいのでは。

回答：初旬なら大丈夫と判断したが、実行委員の意見や企業の意見を踏まえて最終決定したい。

質問：これまでと変わった点とかあるのか。

回答：内容は今後精査していく、これまでのノウハウを活かしながら新たなものを生み出せたらと考えている。

質問：このような組織体系にする根拠はあるか。

回答：障がい者就労を支える企業へのアプローチと雇用に繋がること可能性がある当事者へのア

第6期四国中央市自立支援協議会 第6回会議 議事録

プローチを検討する組織案となっている。

意見：これまでも議論してきているが、障がい者就労をテーマとしているが、ニート・引きこもり等「狭間」と呼ばれる人の支援が課題となってきた。今後、障がいに特化しない枠組み拡大を目指すこともビジョンに入れてほしい。

意見：世の中がどんどん変わってきている。労働力を海外に求めたりしている中、障がいがある方の労働力を活用できるよう時代に対応したものの検討してほしい。

意見：障がいに理解のある企業を実行委員に参加を求めることはできないか検討してみてもいい。

回答：第1回実行委員会でも協議したいが、前向きに検討する。ただし、選定については慎重にしなければならないと思う。

意見：情報共有しながら前向きに検討してほしい。

意見：事務局も協力していただき時代にあった事業推進を求める。

回答：了解した。

議長：以上で質疑応答を終了する。開催要綱案について賛成の方は挙手を。

(賛成多数)

議長：賛成多数。本議案は承認された。次回会議では更に具体的な内容が示されると思われるのでご意見を賜れたらと思う。これで議事を終わる。

5. その他

事務局：その他に入る。委員から何かあれば発言を求める。

報告：別紙の資料を配布した。居住支援法人制度についてご報告したい。

この制度は、独居の高齢者や障がいがある方などが、賃貸アパートなどを借りたいときに、保証人の問題や経済的な面で借りられないなどの課題に対応するもの。この制度に基づき、居住支援協議会を各地域で設立し、自立支援協議会と連携することとなっている。これまでも、触法障がい者など地域に帰ってきたときに居住地がないなどの課題が解決できないことが多々あった。

愛媛県でも住宅セーフティネットがあり、その窓口が東予地方局四国中央土木事務所になっているなどを認識した。今後活用していけたらと思うので紹介させていただいた。障がい者の居住について課題があることを認識頂き、その対応も今後自立支援協議会でできたらと思い提案も含めて本日は報告した。

報告：資料18ページ。県から出されているヘルプマークの登録事業者の紹介があった。

このような事業が進んでいるということで報告する。制度内容について20ページ以降にある。事業者周知し、推進していきたいのでご協力をお願いしたい。

意見：先ほど協議した就労支援策などにもこの制度をうまく活用できるようにしたらいいのではと思う。

意見：ヘルプカード・ヘルプマークについては、当事者が所持することで一定の効果があるが、社会全体がこの制度をもっと知ることが必要。今回の事業者での啓発についても一つの効果にはなると思う。

意見：高齢者支援にある、認知症サポータークラブのような支援者強化事業も必要だと思う。

回答：皆様方の意見を踏まえ推進に努める。

意見：ヘルプカード・マークについて、9月5日の支援者研修会でも紹介してほしい。

回答：対応する。

第6期四国中央市自立支援協議会 第6回会議 議事録

事務局：次回開催日は前会議で協議して決定したが、第8回会議について日程調整ができていなかった。第8回会議は2月13日(木)を予定したい。また、第7回会議は11月7日(木)とする。以上で第6回会議を終了する。

6. 閉会